

令和3年9月15日

農林水産大臣 野上浩太郎 殿

米価下落並びに米政策等に関する緊急要望

立憲民主党農林水産部会長 田名部匡代

令和3年産米について、全国的に生産者概算金の目安額が大幅に下落し、生産現場に動揺が広がっています。米農家にとって、今回の米価の下げ幅は想定を上回るおそれがあり、営農意欲を損失し、今後離農が進むことが懸念されます。

昨今、米の消費量が減少する中、昨年より続くコロナ禍で、外食向け業務用米の需要が減少し、それにより民間在庫も増加する等、先行きが不透明な状況となっています。

国は消費拡大、作付け転換等、米の需給対策に取り組んでいますが、現状としては十分な改善には至っていません。

我が国の食料安全保障の観点からも、生産者の意欲を損なうことなく、安定的な米価の下で所得確保に努めるようあらゆる政策を総動員すべきです。

以上を踏まえて、下記について要望いたします。

記

- 1、緊急かつ限定的な対応として、民間に保管されている令和2年産米の過剰在庫を、政府備蓄米の枠を拡充して受け入れ、市場から隔離すること。また過剰在庫に係る経費について必要な支援を行うため、予算確保に取り組むこと。
- 2、受け入れた政府備蓄米については、既に実施されている子ども食堂や子ども宅食への支援のさらなる推進に充てるほか、コロナ禍における生活困窮者等への支援や、災害等緊急支援の一つとして、レトルトパック化した米を備蓄し、状況に応じて被災地への供給や海外援助に活用するなど、他の省庁とも連携して、需要を促進・拡大する方策を検討すること。
- 3、作付転換に支障を来さないよう、水田活用の直接支払交付金について、より十分な予算を確保すること。
- 4、様々なリスクに対応し、今後も安定的に営農活動が続けられるよう、農業者戸別所得補償制度を復活し、再度、生産調整を政府主導に戻し、収入保険と一体的に実施すること。
- 5、米政策について、公平公正な議論のもと検証を行い、恒久的な制度の構築と十分な予算確保について検討すること。

以上